

「地方創生」に取り組む“ヒト”の思い

～宮崎県西米良村～



宮崎県西米良村
むら創生課長

濱砂 亨氏

プロフィール

1970年生。1994年西米良村役場入庁。企画商工課、総務課財政係等を経て、2009年に「小川作小屋村運営協議会」に出向し、自立自走の集落経営拠点「おがわ作小屋村」の初期運営に携わる。2015年より現職

1,200名の村の取り組み

2014年5月に日本創生会議が公表した「消滅可能性自治体リスト」をうけ、全国で地方創生に取り組まれているが、私の住む村のことだけ考えれば真新しい危機感はなかった。なぜなら、西米良村のここ20数年の歩みは、同様の課題に直面し、「地方創生」という言葉はなかったものの、現村長の強力なリーダーシップとアイデアの下、その対策に村民総参加で取り組んできた道のりであったと思うからである。

平成6年に発表された人口推計において、平成2年国勢調査人口の1,694名が20年後には748名になると予測され、それまでの長期総合計画を一から見直し、「交流人口の拡大」という新たな柱を主軸においた村づくりがスタートしたのは平成8年であった。観光プランナーとして本村の地域振興を当時から下支え頂いている前田豪氏の提案に発した全国初の国内版ワーキングホリデー制度の導入により、全国に西米良村の取り組みが報じられたのをトップバッターに、様々な交流人口対策、若者定住促進、子育て支援など、その時々々の課題を直視し、「西米良村だからやれること」を身の丈に合ったスタイルで展開してきた。

その結果、人口減少は止まってははいないものの、その進行は緩やかになり、決して多くはないが、確実に若い世代のUターンに繋がっている。交流人口も平成6年当時に比べ約3倍となる14万人程度にまで拡大している。

今回、発表された将来人口予測で本村は、1,241名（平成22年国勢調査人口）が2040年には668名に減少すると推計された。現に今年度実施されている2015年国勢



写真1 左：西米良村のキャラクターかりこぼうずのホイホイ君
右：日本一の木造車道橋「かりこぼうず大橋」

調査でもかなり厳しい数値がでるであろうと予想している。

確かにこれまでの取り組みにより一定の成果は得ることができたが、そこに甘んじ現状を維持するのみであれば、予測どおりに推移するのであろうと思う。

しかしながら、前述のとおり西米良村は同じような危機予測を乗り越えてきた過去があり、それを間近で見てきた一員として今般の「地方創生」は西米良村が次のステップに進むためのきっかけであると考えます。



写真2 住民同士が協力し合い現在まで続く西米良神楽

国が人口ビジョンと総合戦略をたて、地方に対しても同様の取り組みを促したとき、個人的に本村でこれからやらなければならないと思ったのは次の3点である。

第1に住民の最新の声をいかに把握し、人口ビジョン、総合戦略等に如何に反映していくかということ。人口1,200名程度の人口であるため、住民との距離は比較的近いが、改めて顔を突き合わすと意外と改めて気付くことなどが多い。そのため、全世帯を対象にその家庭における他出者の状況も含め、世帯の状況把握や村に対する思いや不安などを軒軒聴取し計画に反映することが「西米良村だからやれること」であると考えた。これについては、7月中旬から1ヶ月間で約95%の家庭に対しヒアリング調査を行ったところである。

第2に次世代を担う住民と今後の村づくりに対する意識をできる限り共有していくということ。人口が少ない地域であるため、住民の方々は仕事と別に様々な役割を掛け持つなど、特に現役世代は忙しく、本村の地域づくりは行政主導の側面が強いことは否めない。しかしこれから村で子育てし生活していく世代の方々の想いややりたいことを引き出しながら一緒に将来を考え、この村をいかに快適な村にしていくかという機運を高める必要がある。これに関しては、現在、ちょっと趣向を凝らし、子育て世代の女性を対象としたジビエランチ付きのワークショップなどを開催しながら、次世代の住民の地域づくりに参加する機運を高めながら一つのプロジェクトを形成できるよう取り組んでいるところである。



写真3 にしめら未来づくりシンポジウムの様子



写真4 みんなの明日づくりワークショップの様子

最後に、地方創生に係る一連の取り組みを西米良村から全国発信していくこと。

今年度、国土交通省のモデル事業の採択を受け実証実験を行おうとしているコミュニティバスを活用した貨客混載事業を中心とした新たな生活支援サービスの構築などがその一つである。クリアすべきハードルは多いが、このような取り組みを積み重ねながら、一つでも人口1200名の村から全国のモデルを発信していく機会にしたいと考えている。

西米良村を含む一帯を約500年に渡り統治してきた菊池家の教えに「須らく浩然の気を養い、須らく天下の魁となすべし」という言葉がある。脈々と村民の間に受け継がれてきた教えであるが、「地方創生」をきっかけに今一度この言葉を噛み締め、西米良村だからできることを住民の皆さん一緒に実践していきたいと思う。



写真5 古民家を活用し、宮崎県在住の3人の作家が西米良村に滞在して作品制作をおこなうプロジェクト「たこらさるく」